

「若年ママ運転免許取得希望者アンケート結果報告書」



一般社団法人おきなわ子ども未来ネットワーク

1. 目的：県内に居住し若年で子どもを産み、シングルで子育てをしている女性の生活実態を把握することを目的とする。
2. 対象者：本法人が実施する「若年ママ運転免許取得事業」に応募してきた女性 67人
3. 実施期間：令和6年7月10日～9月30日
4. 実施方法：法人職員による当事者への電話聞き取り調査
5. 調査項目：年齢、市町村別、応募者の子どもの数、就労状況、住まいの状況、学歴等、他自由口述
6. 周知方法：より多くの女性に本事業を周知するために、別紙の通りチラシを作成し、本法人のホームページやインスタグラム、そして県内沖縄タイムス・琉球新報両社へ下記の通り取材依頼を行った。

(周 知 記 事)

第3種郵便物認可 沖縄タイムス 2024年(令和) 7/12

母の免許取得へ態勢強化

ひとり親家庭を支えたい

何をするにも車が必要な沖縄で、一般社団法人おきなわ子ども未来ネットワーク(山内博代代表理事)は本年度、シングルマザーの運転免許取得の支援を強化する。これまでは費用だけの額を支給してきたが、仕事や育児に追われて教習所に通えない人もいた。本年度は住む場所や食事を提供し、免許を取った後の就職まで完全サポートする。休眠預金を活用して、自宅から通う入居費補助も支援する予定。(社会部・森下ゆい)

子ども未来ネット 就労まで伴走

「免許取得は自立の第一歩になる」と、山内さんは語る。10代で出産を経験したならを支えてきた経験から、育児や就労・進学の間を繋ぐには「免許が欠かせない」と考えた。2023年度は車の助成金を活用し、23年度は自主財源で計8人に免許取得費用を支給してきた。

当初は、オートマチック車で約30万円かかる費用が壁だと感じていたが、支給を始めて「母親たちにはさまざまな事情があつて、教習所に通うのも困難があつた(山内さん)。

シングルマザーは家事や育児に加え、働いて生計を立てる必要にも迫られる。教習所で学ぶ間の子どもは預け先確保も悩みの一つ。複雑な家庭環境も影響し、これまで費用を支給したる人中3人は免許取得に至らなかつたという。

このため、7月から費用支給に加え、教習所に通える環境づくりを始める。アパートを借り上げて、「一体型母子自立支援施設」を設置し、3世帯にキッチン・洗濯機・食器もスタッフが揃う。

施設で受け入れるのは9月から来年度の2月まで。自宅から免許取得、就労を目指す母親も他に3人フォローする。

今回は日本都市社協(協会(J-SURF))や関西地域産業活性化センター(NIAC)、県労働者福祉基金協会による休眠預金活用事業と、県労働会館の支援を受けて実施。山内さんは「モデル事業としてしっかりと取り組み、行政に必要性を訴えていきたい。必要な人は問い合わせほしい」と呼びかけた。

9月まで応募を受け付ける。電話は080(6)4952981、または080(6)4952980。平日午前9時～午後5時まで。

住む場所や食事も提供

「ママを通して可能性を広げたい」 橋本真由美 代表理事

生活 2024年(令和6年)7月25日 木曜日

運転免許取得へ包括支援

若年妊婦の支援をする一般社団法人「おきなわ子ども未来ネットワーク」(山内優代表理事)は、運転免許取得を希望しているシングルマザーに、オートマチック車の免許取得費用30万円を全額支援する事業の対象者を募集している。若年妊婦、本年度からは就職先に通う間の住居・食事の提供や、免許取得後の就職に向けて包括的に支援する取り組みも始める。山内代表理事は「免許は自立への第一歩。就職へ」と呼び立てると、貧困の連鎖も防げると、事業の意義を語る。

おきなわ子ども未来ネットワーク シングルマザー募集

同事業は2022年12月の住居手当がなくなった。これまでに車の購入、子どもの預け先がなかったり、成人や主婦の収入が不足して、免許取得を断る人が多かった。今年度は5人に減額支援し、8人に費用を助成し、5人が免許取得した。事業開始前は、費用がなかったり、車の購入が困難だった。免許取得後は、子どもの通園や通学が難しくなる。免許取得後は、子どもの通園や通学が難しくなる。免許取得後は、子どもの通園や通学が難しくなる。

自立への第一歩 費用全額、住居、就職も

や、必要な支援が受けられなかった。こうした実情を踏まえ、免許取得と就職を同時にサポートする「おきなわ子ども未来ネットワーク」が、免許取得費用の助成に加え、認定の資格取得などの教育支援や就職支援をする。また、アパートを借り上げて、世帯に住居を提供し、食事も出す。保育士を配置して、就業に通う人も安心して子どもを預けられるようにする。

本年は関西圏各地域で生活性化センター(NIA)や、児童市町国等協会の(SURE)、県労働者福祉協議会による休職手当活用事業「子育て世帯等が生活困難・就業困難状況から抜け出す自立支援プロジェクト」も、県労働金庫の「働く人子どもの明日を応援プロジェクト」の支援を受けて実施する。

同法人の小橋川結菜は「生活が安定してこそ本来の力を発揮できると思うので、いろいろな形でみんなを支えていきたい。免許を必要としている人は気軽に問い合わせてほしい」と話した。

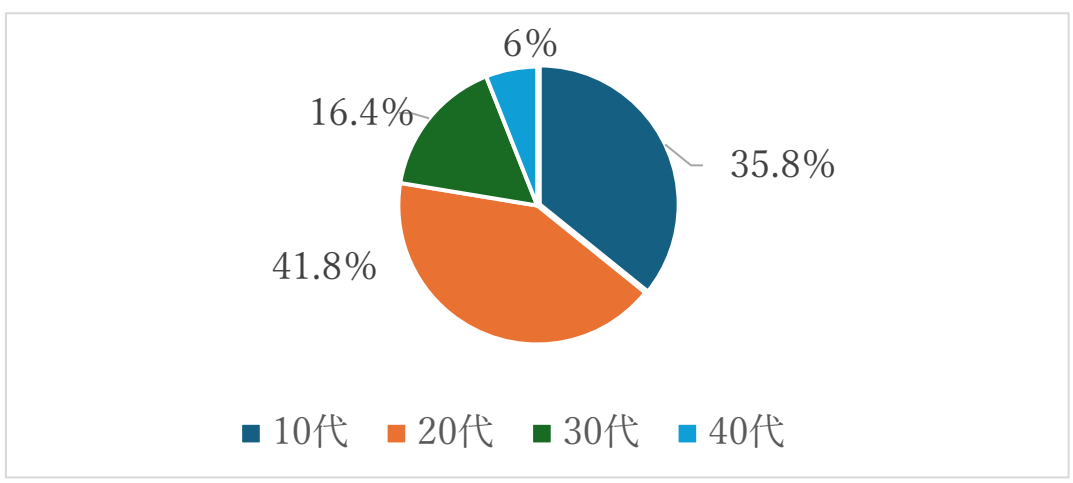
募集は9月30日まで。問い合わせ・申し込みは同法人 電話0900004045(5) 20001または0900004045(5) 20000。平日午前9時から午後5時。(随時すみれ)

二〇二四年(令和六年)七月二十五日(木) 琉球新報

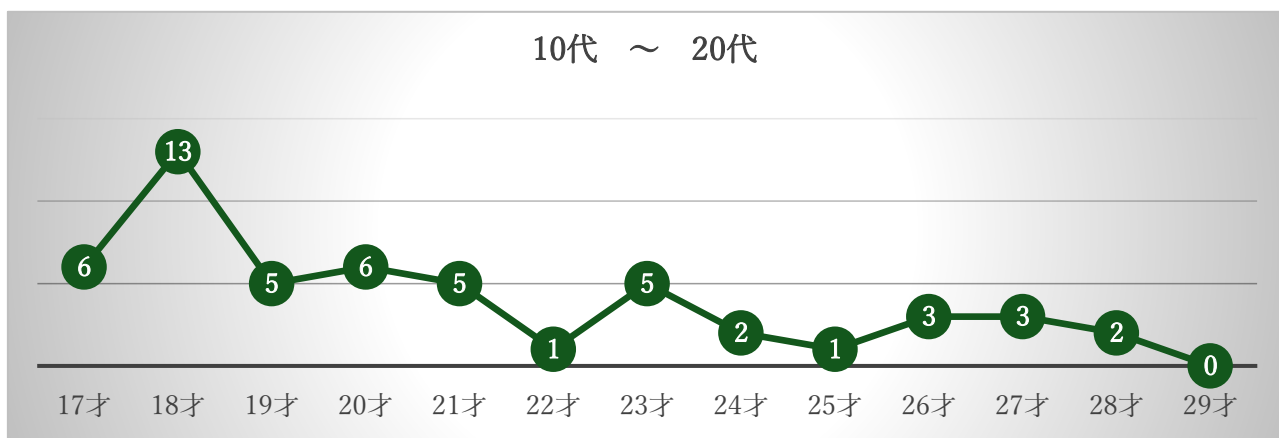
7. 調査結果

(1) 年代別応募件数

年代別	人数	割合
10代	24人	35.8%
20代	28人	41.8%
30代	11人	16.4%
40代	4人	6.0%



(2) 年齢別応募件数（ 10代から20代 ）



*年代別にみると、20代が最も多かったが、17歳から29歳までの年齢別で見ると、18歳が13人と最も多く、10代、20代の25%を占めていた。次いで17歳、20歳が6人となっていた。

*最年少は17歳で6名、最高年齢は47歳であった。

(3) 市町村別応募件数

那覇市	沖縄市	浦添市	宜野湾市	うるま市	南城市
18人	15人	6人	5人	5人	4人

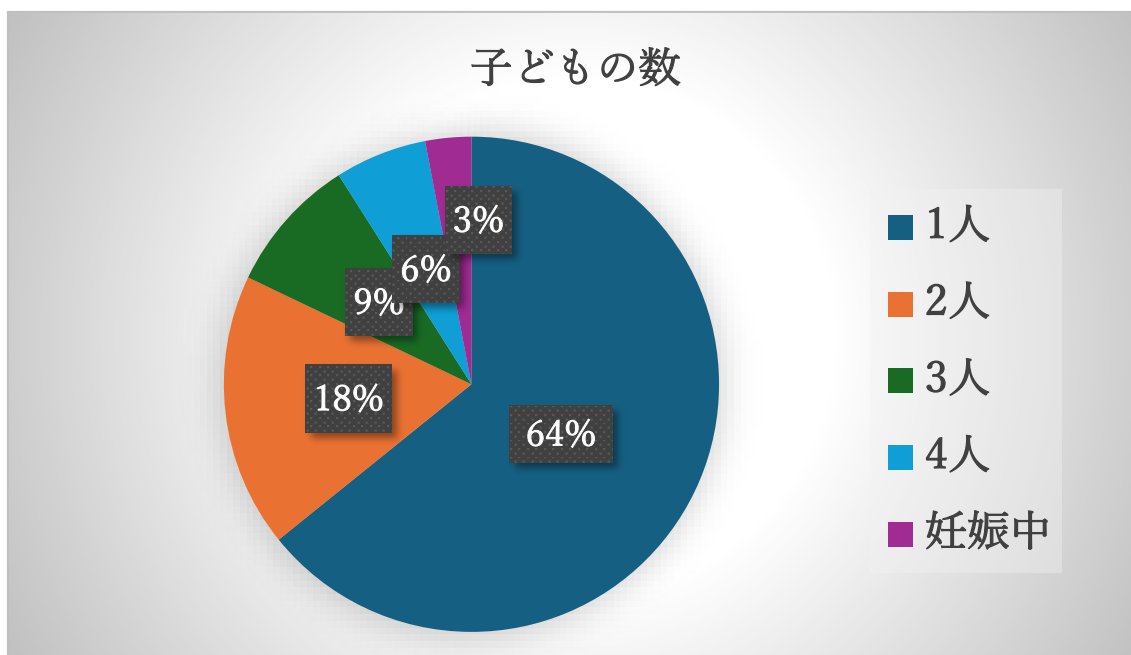
2人・・・西原町、名護市、八重瀬町

1人・・・糸満市、豊見城市、北谷町、読谷村、宜野座村、南風原町、宮古島市

*免許所得希望者は、那覇市18人、沖縄市15人と人口が多い都市部に多いが、広く離島を含め各市町村に希望者がいるということがわかる。全県に渡って関心の高さが伺われる。本県においては、公共の交通機関がバスしかなく、バスの運行時間も一定ではないため、特に乳幼児のいる若年ママはバス利用が困難で、移動には車は必需品である。

(4) 応募者の子どもの数

1人	2人	3人	4人	妊娠中
43人	12人	6人	4人	2人

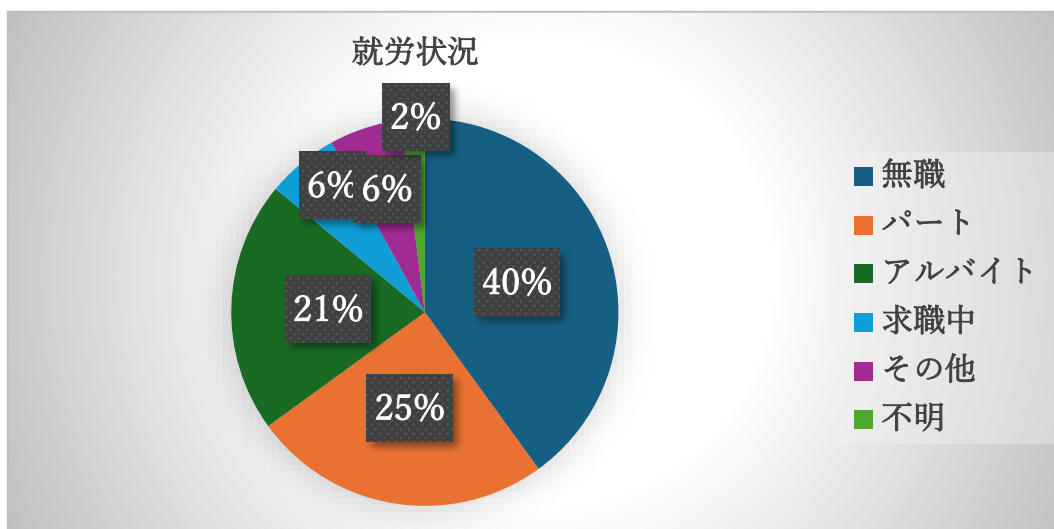


*応募者の子どもの数は、一人が最も多いが、これは公募の段階で若年のシングルマザーと対象者を限定しており、若年の希望者が多いためである。
30代の4名の子どもを持つ母親は、子どもたちの保育所の送迎、学校の送迎等に車の必要性を訴え、その為の運転免許の取得を切に希望していた。

(5) 応募者の就労状況

無職	パート	アルバイト	その他	休職中	不明
27人	17人	14人	4人	4人	1人

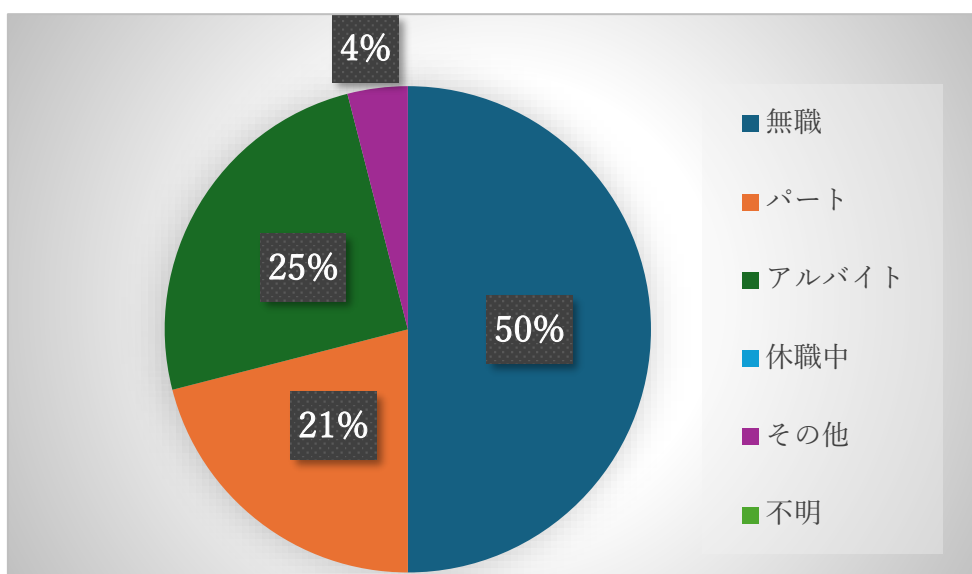
*パートは勤務先は固定しているが、就労時間がフルタイムではなく短い。
アルバイトは、勤務先が安定せず、就労時間も一定していない。



*全体の就労状況は、無職が40%で最も多く、次に多いのは就労時間が短時間で一定しないパートである。勤務先が安定していないアルバイトの中には、割り当てられた勤務時間に出勤すると、間に合っていると断られることもあるとのこと。

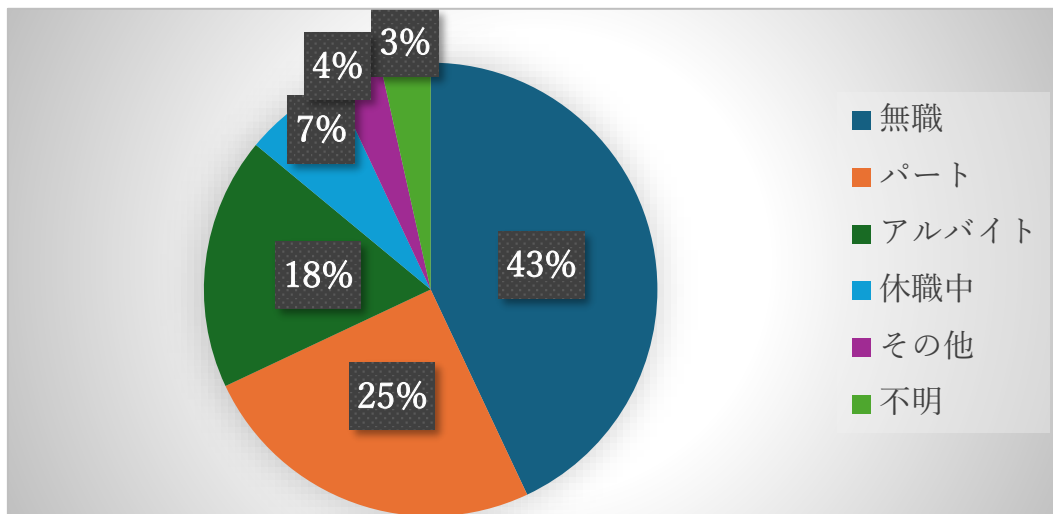
(6) 年代別就労状況 (10代、20代)

・10代の就労状況



*10代は無職が50%で最も多く、次いでアルバイト、パートの順である。10代は学歴、資格もなく、アルバイトやパートしか働く場所がない。

・ 20代の就労状況

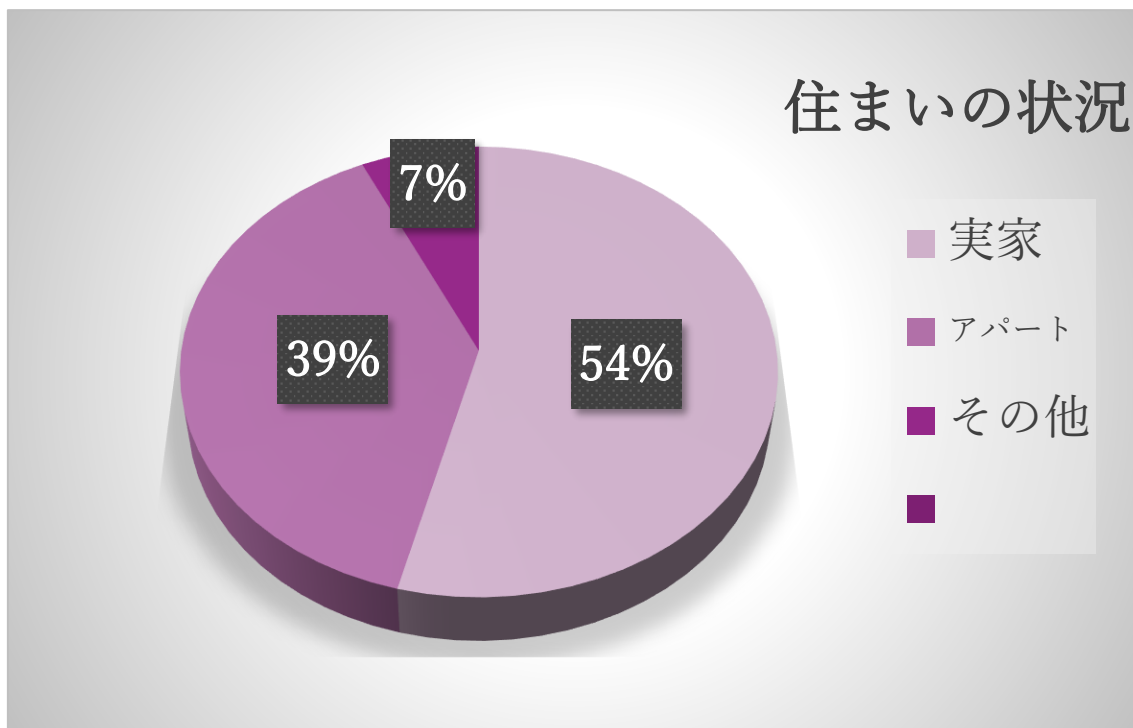


* 20代になると、有職者も増えてくるが、安定した仕事に就いてる者はなく、不安定収入のパートやアルバイトが4割以上を占める。無職も4割以上ある。

(7) 応募者の住まいの状況

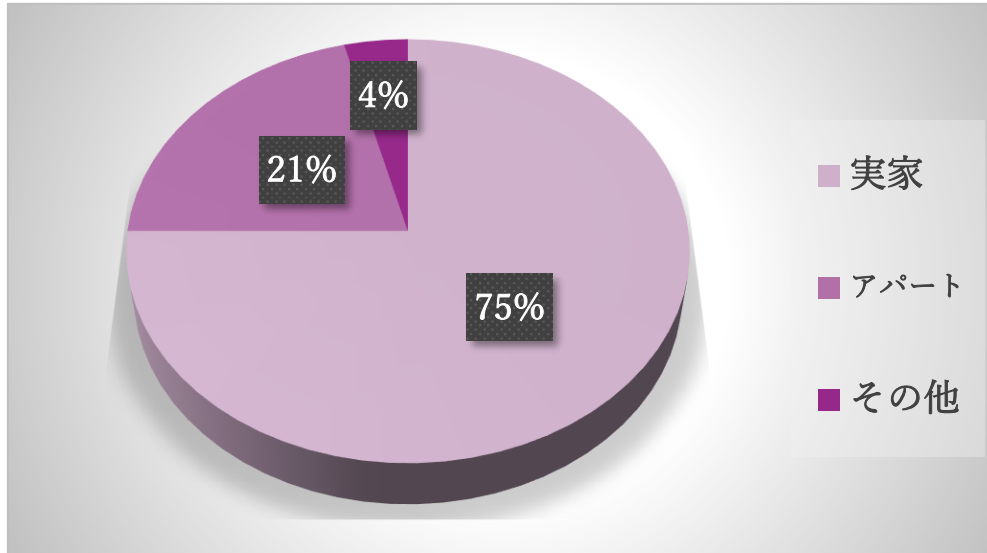
全体の住まいの状況

(実家 36人、アパート 26人、その他 5人)

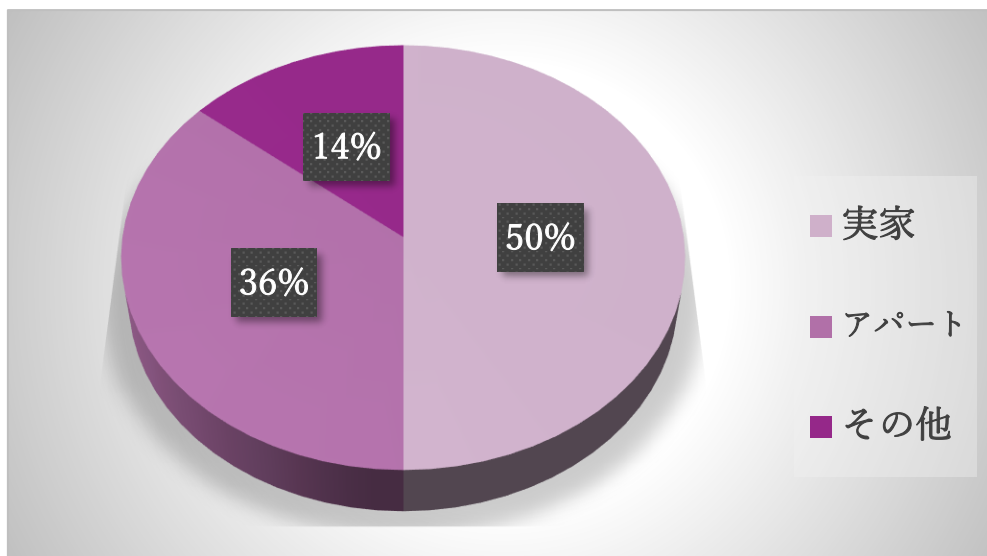


(8) 年代別住まいの状況 (10代~20代)

・10代の住まいの状況 (実家18名、アパート5名、その他1名)

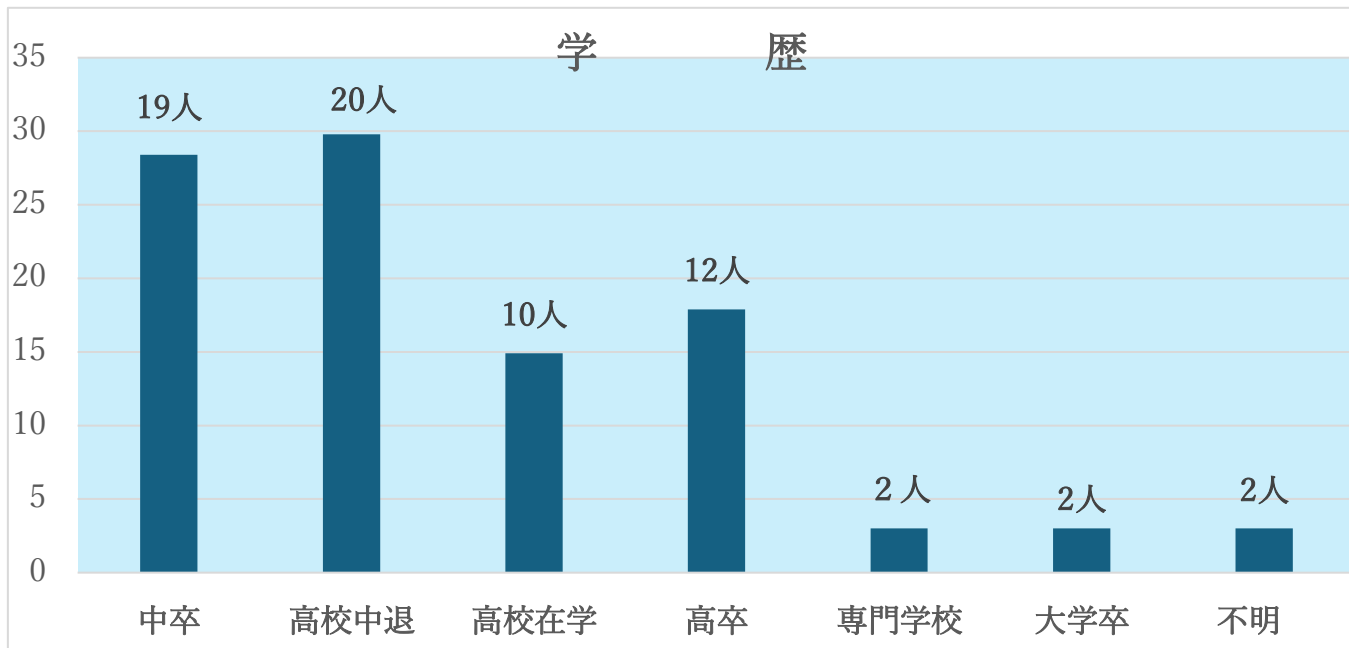


・20代の住まいの状況 (実家14人、アパート10人、その他4人)



*住まいの状況は、これまで殆ど実態が知られていなかった分野であり、本調査で実態が明らかになった。10代では、75%の母子が実家に住んでいることがわかった。中には3DKの狭いアパートに8名の家族が住んでおり、居場所がないと訴える者もいた。20代になるとやや改善されていくが、それでも半数の母子が実家に住んでおり、大半の母子が実家を出て自立したいと訴えていた。

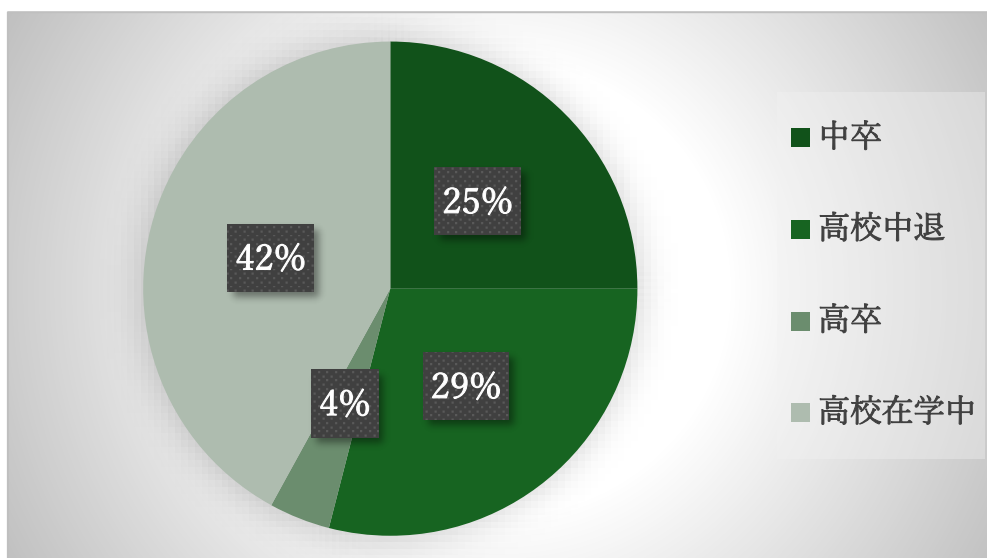
(9) 応募者の学歴



(10) 年代別学歴の状況

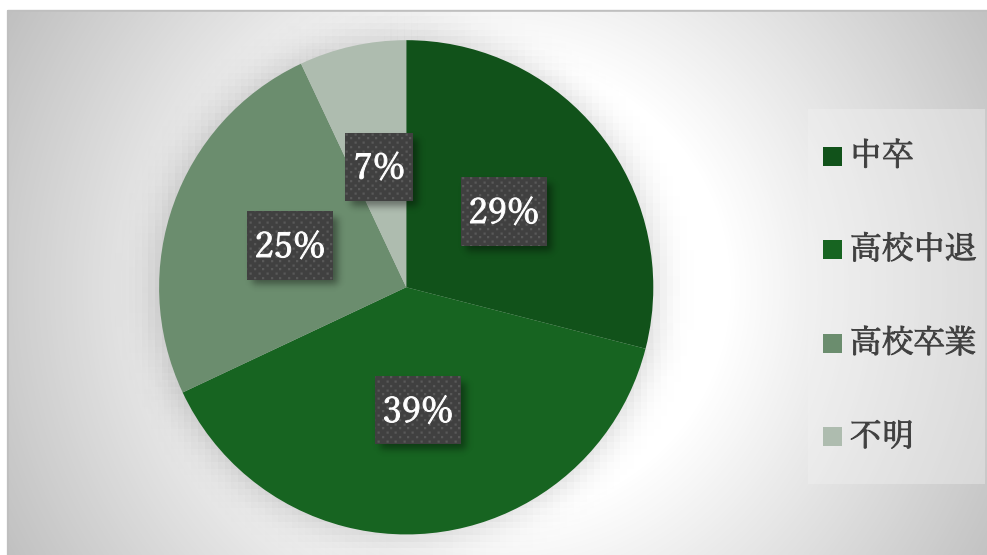
・10代の学歴

・中卒：6人 ・高校中退：7人 ・高卒：1人 ・高校在学中：10人（休学2人）



・20代の学歴

・中卒：8人 ・高校中退：11人 ・高卒：7人 ・不明：2人



*10代の学歴で最も多かったのは、高校在学中で42%であるが、全て通信制高校か定時制高校であった。中卒は25%、高校中退は29%で半数以上を占めていた。

・20代になると、25%は高校卒業であるが、中卒は29%、高校中退は39%で、高校中退が最も多い。高校中退の理由は、通信制高校の学費が継続して払えなかったというのが大半であった。

(11) 当事者の声

(a) 運転免許について

- ・バスが時間通りに来ないため、仕事や保育園に遅刻したりする。
- ・保育園へ徒歩で50分かけて通っている。雨降りはびしょ濡れになる。
- ・小学生の子を徒歩で登校させたら熱中症になった。
- ・子どもを夜間救急診療させると、タクシー代が高額で困った。
- ・何をすることも車がないとできない。(保育所の送迎も仕事も)
- ・自分が自宅から通える距離内にやりたい職がない。仕事の幅が限られてくる。
- ・ずっと「免許取りたいと思ってきたが、子育てに時間とお金が取られてとれ

なかった。

- ・免許がないので、仕事断られた。昼間の仕事がしたいけど、免許がないと身動きがとれない。免許がないと就職できない。

(b) 住まいについて

- ・実家に8名で3DKに住んでいるが、狭くて居場所がなく、落ち着けない。
- ・実家に7名住んでいるが、親子の個室もなく早く自立して実家を出たい。
- ・実家に世話になっているが、早く出ていけと言われていて。子どもを連れてアパートを借りて出たいがお金がない。
- ・親が自分の扶養手当を管理している。自由に使えるお金がない。
- ・家族のいろいろな問題に巻き込まれる。自分のことが集中してできない。
- ・アパートを借りて出たいが、金銭面が苦しい。

(c) 就労について

- ・免許を取得すれば、仕事の幅が広がるから、より自分の希望する仕事につける。時間も有効に使え、フルタイムでも働ける。
- ・パートでなく、正社員になりたい。安定した収入を得て、もう少し食事を増やしたい。安定した収入を得るため、フルタイムで働きたい。
- ・残業ができない（通勤に時間がかかり、保育所の送迎があるため）
- ・日曜日休みの所で働きたい。安定した収入が欲しい。
- ・職の同僚に子どもの病気で休むと嫌みを言われ、気まずい思いをしている。シングルの事情を分かってくれない。
- ・なんの資格もないのがネックになっている。せめて運転免許の資格があればと思う。免許がないと厳しい。

(d) 学歴について

- ・高校中退や小さい子がいると、面接で落とされてしまう。
- ・高校卒の資格がないので、利用者の対応に自信を持って対応できない。
- ・高校を中退し、高卒の資格を取りたいと通信制の高校へ通ったが、学費が続かなくて、辞めてしまった。
- ・高校の通信制に在籍しているが、学費が準備できず休学している。
- ・高校在学中に妊娠し、高校を辞めてしまった。
- ・高校中退したので、通信とかで高卒の資格を取りたい！

(12) まとめ：「 職なく、住まいなく、学歴なく、資格なし！ 」

- 全ての女性が仕事をしたいと思っている。フルタイムで働きたいと思っているが、さまざまな理由で無職の女性が半数近くいる。
- しかし自宅から通える範囲には、仕事がなく、近くに保育所もなく、働こうにも働けず、車があればと切に思っている。
- 子どもを産むために、自宅に戻ってきた女性が大半であるが、実家は狭く、本人の弟・妹がいて、実家も母子家庭で経済的にも余裕はない。
- 実家に世話になっている女性は、早く実家を出て自立して親子で生活したいと思っているが、学歴がないため賃金は安く、お金が貯まらない。
- 子育てをしながら免許費用を貯めたいと思っているが、残業ができず、日々生活していくので、精一杯である。
- 一人で、二重、三重、四重の苦難を抱えている女性たちがいる。まさに、職なく、住まいなく、学歴なく、資格なしという女性たちである。
- そして、そこには未来を担う子どもがいる。
- 全てのシングルマザーが我が子をしっかり育て、幸せにしたいと思っている。
- そういう親子をどこから、何から支援していけば良いのか！
- この問題は決して、個人だけの問題ではなく、社会全体で考えていかなければならない社会問題である。何故なら、そこに未来を担う子どもがいるから！